

視点② 養護教諭が専門性を高め続けることができているか。

専門講座が、これまで積み重ねた経験に新しい専門的知識を加え、日々変化し続ける子供の健康課題への対応力を更に深めていくという研修目的を達成しているか、教育センター研修講座受講者アンケートから考察を行いました。

専門講座

表 1 平成 26 年度から平成 28 年度に開催した養護教諭専門講座と受講者

	開催専門講座	経験年数別受講者数(人)						
		1～5年	5～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31年以上
平成26年度	専門Ⅰ講座 「学校での救急処置と対応」	30	15	2	9	12	13	15
	専門Ⅱ講座 「保健室経営の基本とその対応」	13	4	1	3	1	4	3
	専門Ⅲ講座 「保健教育を効果的に進める工夫」	22	4	2	2	5	3	6
平成27年度	専門Ⅰ講座 「学校での救急処置と対応」	21	9	4	2	8	7	15
	専門Ⅱ講座 「保健室経営の基本とその対応」	10	5	2	1	2	1	3
	専門Ⅲ講座 「保健教育を効果的に進める工夫」	7	3	0	1	1	3	2
平成28年度	専門Ⅰ講座 「学校での救急処置と対応」	10	9	5	7	10	14	15
	専門Ⅱ講座 「保健室経営の基本とその対応」	8	5	5	3	0	1	0
	性的マイノリティの理解と対応講座	10	9	5	7	10	14	15

平成26年度から平成28年度に開催した専門講座は、表1のとおりです。

平成26・27年度に受講した経験年数21年以上の養護教諭が参加動機に「教育センターに専門講座が開講されたから」と回答しており、養護教諭の多くが学びの継続の必要性を感じています。

専門Ⅰ講座「学校での救急処置と対応」は、3年連続で開講していますが、経験年数を重ねた養護教諭の受講も多く、養護教諭が、児童生徒の緊急対応を重視し、その専門的スキルを繰り返し練習しながら確実な対応を行うことに努めていることが分かります。専門Ⅰ講座のような基本的なスキルの習熟と新たな医学的知識の獲得については、今後も継続して行う必要があると考えます。

専門Ⅱ講座「保健室経営の基本とその対応」も3年連続して開講しています。「保健室経営の基本とその対応」において、保健室経営案の作成は文部科学省や佐賀県教育委員会からの推進が行われたことから、平成26、27年度の受講者が多くなっていると考えられます。

専門Ⅲ講座「保健教育を効果的に進める工夫」は、経験年数が比較的短い養護教諭の受講が多くなっています。学習指導要領の改訂に当たって基本的な考え方の一つとして挙げられている世界保健機関が提唱しているヘルスプロモーションの視点に立ち、学校、家庭及び地域社会が連携し、児童生徒の発育・発達や実態に応じた健康教育を行うために、担任教諭とTT授業に取り組もうとしていると考えられます。

「性的マイノリティの理解と対応」は、日本や世界の性的マイノリティの現状並びに当事者である講師自身の経験や思いが伝わり、受講者に好評でした。時機を捉えた専門講座設定ができたと考えます。

一方、専門Ⅱ講座「保健室経営の基本とその対応」、専門Ⅲ講座「保健教育を効果的に進める工夫」は、貢献期(21年目以上)の養護教諭の参加が少なくなっています。貢献期(21年目以上)の養護教諭は、すでに、自分の得意分野を生かした保健室経営や保健教育の推進を図り、子供の健康課題解決に取り組んでいるからだと考えられます。

表2 専門講座別受講者自己評価

	講座名	受講者自己評価			受講者の感想
		参加意欲	理解	実践意欲	
平成26年度	専門Ⅰ講座 学校での救急処置と対応	3.9	3.8	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 最新の救急処置法を知ることができた。 講師の先生が、学校現場の状況をよく理解され、説明が分かりやすかった。
	専門Ⅱ講座 保健室経営の基本と実際	3.8	3.5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な内容から実践的な内容まで丁寧な説明で、非常に分かりやすい内容だった。 講義と演習がうまく組み合わせられていた。
	専門Ⅲ講座 保健教育を効果的に進める工夫	3.7	3.5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な内容とポイントを押さえた説明で、よく理解できた。 演習では他の先生の意見を聞くことで、参考になり、有意義だった。
平成27年度	専門Ⅰ講座 学校での救急処置と対応	3.9	3.7	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 学校に理解のある講師の先生の話で、役立つ情報だった。 学校で遭遇する疾患の観察点や処置、病院受診の必要性など、知ることができた。
	専門Ⅱ講座 保健室経営の基本と実際	3.7	3.4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 所属校の保健室経営計画が作成でき、実りある研修だった。 グループワークで、自分だけでは分からなかった課題に気付くことができた。
	専門Ⅲ講座 保健教育を効果的に進める工夫	3.7	3.3	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領や保健学習の手引きの確認や活用を図ることができた。 グループでの話し合いは、情報交換ができ、意見を出し合うことで考えを深めることができた。
平成28年度	専門Ⅰ講座 学校での救急処置と対応	3.6	3.4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 理論を知り、ガイドライン2015の要点を理解できた。 心肺蘇生法は、最新の情報だったので勉強になった。
	専門Ⅱ講座 保健室経営の基本と実際	3.7	3.4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 経営計画を立てることが負担になると考えていたが、目標を持つと計画的に仕事が行える。 具体的方策や評価の記入を講義で学ぶことができた。
	性的マイノリティの理解と対応	3.7	3.6	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 保健室にいてできる支援、保健室から校内全体にできる支援が見えてきた。 研修で得た知識を全職員で共通理解したい。

表2は、各専門講座受講者別の自己評価です。

専門講座Ⅰ「学校での救急処置と対応」では、参加意欲・実践意欲共に加重平均が高く、養護教諭が専門的知識・技能の習得の必要性を強く感じていることがうかがえます。また、学校現場に沿った講義は、養護教諭が傷病への対応を具体的にイメージし、専門的スキルを反復・確認することで、自信につながると考えます。

専門講座Ⅱ「保健室経営の基本とその対応」では、受講者の実践意欲が各年度共に3.8となっており、学校保健活動の中核的な役割を果たすための保健室経営計画を職務の中に生かそうとする意欲が高くなっています。受講者の感想に「講義と演習がうまく組み合わせられていた。」「所属校の保健室経営計画が作成でき、実りある研修だった。」とあります。本講座は、一日の講座で実施し、保健室経営計画の基本的視点、立案方法の講義後、実際に自分で計画を作成する演習、貢献期の養護教諭の計画実践発表の順で行っています。特に、学校で活用可能な計画を講座で作成できる演習が、日々の職務にすぐに反映できるメリットを評価していると考えられます。

「性的マイノリティの理解と対応」は、文部科学省から子供たちへの対応について、各学校に通達が出された最新の内容です。参加・実践意欲の加重平均は高く、養護教諭が社会状況を敏感にとらえ、現在の知識から新たな知識へと刷新しようとする意欲が高まったと考えられます。

視点②における成果と課題

視点②の成果として、次のことが挙げられます。

専門講座への養護教諭の参加動機に「教育センターに養護教諭の専門講座が開講されたから」との回答が数多くありました。このことから、長年、養護教諭の多くが、県内で専門的事項を学び続ける場の必要性を感じてきたことが分かります。教育センターに養護教諭の講座が開設されたことの意義が大きいと言えます。また、専門講座が、養護教諭の学びへの期待を反映した「専門的技術の反復」「専門的知識・技術の実践」「新たな専門的知識の獲得」の役割を明確にした設定を継続的に重ねたことで、あらゆる世代の養護教諭が積極的に講座へ参加する意識を高めたと考えます。

視点②の課題として、受講者がより講座内容の理解を深めるために、例えば、実際に授業を参観する機会の設定、グループワークのプログラム開発など指導方法の工夫が必要だと考えられます。

また、貢献期(21年目以上)の養護教諭の受講者が参加意欲をもてるよう「新たな知識の獲得」が可能な講座の設定や指導的立場を目指したキャリアステージを高める他講座との連携を図る必要があります。